



Contents

- ▶巻頭言
「被災地で必要とされるCODEの力」・・・1
- ▶特集
令和6年(2024)能登半島地震・・・2
- ▶プロジェクトレポート
トルコ・シリア地震支援・・・6
やさしや足湯隊・・・8
- ▶CODE未来基金NEWS
子守りボランティア・・・10
- ▶イベントレポート
CODE寺子屋セミナー2023・・・11
やさしや足湯隊の報告&交流会・・・12
- ▶スタッフ活動記録・・・13
- ▶会員・寄付者ご芳名・・・14
- ▶活動へのご協力のお願い・・・16

巻頭言「被災地で必要とされるCODEの力」

1月1日の能登半島地震ではじまった2024年。正月気分は一気に吹き飛び、津波警報に緊張が走り、建物倒壊や火災に見舞われた町の姿は、私たちに阪神・淡路大震災を思い起こさせた。いま発災から3カ月、被災地はインフラ復旧の遅れや人手不足という問題を抱え、孤立集落や自主避難所で人々が支援から取り残され、先の見えない状況に災害関連死も懸念される。さらに今回の災害では、石川県によりボランティアの被災地入り制限されるという予想外の事態に、多くの人がもどかしい思いを抱えている。阪神・淡路大震災をきっかけに発展したボランティアの意義、役割とは何か、社会全体で再度共有する必要に迫られている。そのような中、CODEはいち早く現地入りし、今も、若者を中心として一人ひとりに寄り添う「足湯ボランティア」の活動を続けている。CODEの活動は、被災地でボランティアや若者の力が必要とされているということ、社会に再提起することになるだろう。

一方、トルコ・シリア地震は発災から1年以上が経過、CODEはハタイ県の支援を継続している。政治的に復興から取り残され、外部の支援が入りにくい同県での活動は、コミュニティの再生や被災者のエンパワメントといった、今後を見据えた長い復興支援の段階に入っている。現地のカウンターパートと協働し、中長期的な視点で被災地に寄り添い、「つながり」を生み出し、被災者自らが立ち上がる力を支える、CODEらしい活動である。

CODEはこれからも「最後のひとりまで」の理念を胸に、国や地域によって大きく違う社会情勢にしなやかに対峙しながら逆境を乗り越え、支援の届きにくい人ひとりひとりに寄り添うために、多くの若者や支援者、被災地の当事者たちと共に道を切り拓いていく。

(CODE理事/多言語センターFACIL 山口まどか)

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

令和6年(2024年) 能登半島地震



寸断された国道249号線
(石川県七尾市中島町小牧)

【地震の概要・被災地の状況】

◎発生日時 令和6年1月1日16時10分

◎震源及び規模
場所: 石川県能登地方
規模: マグニチュード7.6
震源の深さ: 16km

◎石川県内の震度(震度5強以上)
震度7 志賀町、輪島市
震度6強 七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
震度6弱 中能登町
震度5強 金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町

◎地震活動の状況
1月に能登地方で震度1以上を観測した地震は1546回。1月1日から3日は1日100回を超えていたが、次第に回数は減少。2月に能登地方で震度1以上を観測した回数は144回。3月に能登地方で震度1以上を観測した回数は46回。

◎人的・住家被害等の状況
死者: 245名
(石川県七尾市5人、輪島市106人、珠洲市103人、羽咋市1人、志賀町2人、穴水町20人、能登町8人)
災害関連死: 15名
全壊: 8,605棟
(新潟県 102、富山県 238、石川県 8,265)
半壊: 18,980棟
(新潟県 2,927、富山県 711、石川県 15,330、福井県 12)

◎避難所の状況
石川県
避難所数: 326 避難者数: 6,328人

◎ライフラインの状況
・水道の被害状況
石川県内の4事業者において約6,220戸が断水中。一部は断水解消済。

・電力の被害状況
石川県内の停電は、安全確保等の観点から電気の利用ができない家屋等を除き 復旧。

・ガス関係の被害状況
都市ガス・熱供給事業について、供給支障なし。

(石川県発表: 4月9日)



物資の提供・運搬



住民さんが主体で水道管を修復している

【経緯と初動】

2007年の能登半島地震以降、被災地NGO協働センターの復興支援の一環でお熊甲祭りに毎年、神戸大学の学生などと参加するなど中島町小牧の壮年団と関係を深めてきた。今回の地震では、被災地NGO協働センターと兵庫県防災士会とCODEの三者で連携して支援を開始することになり、1/21に先遣隊2名が兵庫県防災士会提供の食糧などを中島町小牧の避難所「中島地区コミュニティセンター西岸分館」に届けた。

【これまでの派遣概要】

○先遣隊: 1月2日～4日
メンバー: 村井、吉椿
内容: 現地の調査と必要な物資の調達等を実施した。
※物資(食糧・水・灯油・ガソリン、携行缶・カセットコンロ・ポンペ、発電機3台・テーブルタップ段ボールトイレ、トイレトイペーパー、生理用品はじめ衛生用品など)を七尾市中島町小牧に届けた。

○第二次派遣: 1月5日～9日
メンバー: 増島、山村

○第三次派遣: 1月17日～24日
メンバー: 島村さん、植田さん、吉椿

○第四次派遣: 1月29日～2月2日
メンバー: 斉藤さん、島村さん

○第五次派遣: 2月22日～2月26日
メンバー: 吉椿

○足湯ボランティア先遣隊: 2月4日～7日
○第一次足湯ボランティア隊: 2月19日～22日
○第二次足湯ボランティア隊: 2月26日～29日
○第三次足湯ボランティア隊: 3月5日～8日
○第四次足湯ボランティア隊: 3月13日～16日
○第五次足湯ボランティア隊: 3月22日～25日
○第六次足湯ボランティア隊: 3月28日～31日
※足湯隊は、本12Pを参照



炊き出し

【現在の支援】

- ・倒壊家屋の片付け、災害ゴミ出し
- ・物資の提供、運搬
- ・足湯ボランティア
- ・炊き出し
- ・避難所、仮設住宅の運営補助
- ・個人、団体ボランティアの受け入れ
- ・他団体とのネットワーク形成、など

【課題】

○高齢化
2007年の高齢化率 輪島31.4%、門前47.1%
2020年 輪島45.7%、珠洲51.6%、穴水59.1%、能登町50.4%

高齢化の中でも単身高齢者世帯が増加しており、今後住宅再建など復興をどのように考えていくべきなのか。

○災害関連死
避難所の劣悪な環境(食事による栄養の偏向、トイレ環境が最悪など)も影響を及ぼすと思われる。しかし、それ以上に避難所の統廃合による影響で、在宅避難および車中泊の長期化により、仮設住宅などへの移動によるストレスが原因での関連死の増加を防ぐことが最大の課題。

○ボランティア
当初、石川県の一般ボランティアに対する被災地入りを規制する発言が影響しているのか、被災地のボランティアは圧倒的に不足している。したがって、家屋の片付けなどが遅々として進んでいない。

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

特集

【能登半島地震の現状と課題】

被災地NGO協働センターでは、CODE海外災害援助市民センターと連携して、1月2日から能登半島地震の救援活動を開始した。私たちは2007年に発生した能登半島地震でも支援活動をおこなっており、その後に顧問・村井が企画・発行した「いとしの能登よみがえれ」という写真集をきっかけに、2009年から七尾市中島町小牧集落の一員として、「お熊甲祭り」に参加していた。かれこれ15年間のお付き合いがある小牧集落のみなさんと地震直後からすぐに連絡を取り合い、地震発生翌日には小牧集落の避難所サポートに入り、その後も拠点となる集会所をお借りして現在まで継続して支援を続けている。



今回の能登半島地震の特徴は、緊急的なフェーズが長く続いているということだ。大きな要因としてライフラインの回復が遅れていることや、半島という地形であるために輸送手段が限定的である上に、道路交通網の被災が大きいことなども挙げられる。そのため、被災者の方々の生活が荒ただしいものになっていて、とても休まる暇がないという状況だ。さらに、行政の対応も甚大な被害によって後手に回ってしまったため、対応が遅れてしまい、避難所での食事提供や寝具の提供なども災害から相当な時間が経過してからになってしまっている(例えば、七尾市では行政が手配したお弁当が避難所に配布されたのは3月24日が初めてであった)。そのため、避難所の環境も良いとは言えない状況が続いている。3ヶ月以上が経過した避難所生活では、ストレス等も積み上がっており、生活環境の改善が急務であり、ボランティアによるサポートが非常に重要な役割を担っている。

さらに、厳しい環境にあるのが在宅避難所だ。避難所の環境があまり良くないこともあり、在宅で暮らすという選択をされる方が非常に多い。中には、水がまだ出ていないのに在宅で暮らしているという方もいる。私たちの拠点では、物資配布の活動をおこなっており、様々な企業や個人、NPO団体の方々から寄せられた支援物資を陳列し、ショッピング形式で自分の好きなものを選ぶようにしている。物資を取りに来られている在宅避難者の方々は、生活環境が良いとは言えないばかりだ。物資配布時にアンケートを取らせていただいているのだが、壊れた状態の自宅に戻っている方が多く、自宅で自炊できているという方は約半数に留まっている。トイレやお風呂が満足に使えないという方も少なくない。満足に生活ができる環境ではないものの、在宅で暮らす方にはなかなか支援が届いていないというのが現状だ。ここに物資を取りに来て初めて物資をもらった、という人も一人二人ではなく数多くいる。また、支援物資だけでなく情報もなかなか届いていない。そのため、LINE公式アカウントを作成し、私たちの拠点に物資を取りに来てくださっている方に登録してもらって情報を届けるという工夫もしている。最近では、制度のご相談も増えてきた。「公費解体をどうやって申請したら良いのか」「罹災証明の判定が低いので諦めようかと思ったけど、再審査をした方がいいと思うか」「住宅ローンが残っているけど減免できるのか」など、多くの人が将来の生活再建に向けたお悩みを抱えている。



支援物資を配布している拠点



支援物資の配布



足湯の様子

今後は、場づくりの支援も大変重要になってくる。拠点を訪れてくださる方々は、物資がもらえるのでやってくるというよりも、お話をしたいということで通ってくださる方も多い。「ここに来れば話が聞いてもらえるからいつも来ているの」という声もいただいている。これまでは生活に必要な支援が中心であったが、今後は生活を豊かにする支援も必要だ。地域のお店を盛り上げるイベントや、仮設住宅の方々同士の交流会など、人と人のつながりを作る支援によって、生活が豊かに心に潤いが生まれてくる。また、CODEと共におこなっている「やさしや足湯隊」の活動も重要だ。被災者の方々とボランティアとが対話することで、被災した人の心が癒やされていくという効果も持っており、被災された方々のつづきからニーズも見えてくる。まだ復興への道のりは始まったばかりである。被災された方、一人ひとりに向き合いながらそれぞれの復興の形を見つけ出すお手伝いを続けていきたい。

(被災地NGO協働センター代表 頼政良太)

【いまこそ、ボランティアは能登へ行きましょう！！】

2024年元日午後4時10分頃、能登半島地震が発生した。体感としては1996年に今回と同じくらいの地震があったと被災者の証言もあり、珠洲市正院にある菅原神社には記録もある。最近では2007年、2020年、2023年に続いている能登地域での地震だ。特に2020年には奥能登の群発地震が警告を発していた。阪神・淡路大震災以後、住宅耐震化が促進されてきただけに「備えがあれば・・・」と侮やまれる。そして被災地はまもなく4ヶ月を迎えているが、未だに水は出ない、電気は使えないという不自由な生活を強いられている被災者も少なくない。災害大国日本と言われてきたこの国だが、何故過去の教訓が生かされないのか？災害の度にそう思うのは私だけではないだろう。日本は災害先進国であっても、防災先進国ではないということを、思い知らされた災害になったといえる。

私は、翌2日に同僚と2人で現地に入り、その後5日に珠洲の被災地に入った。道路の陥没と隆起、地割れ、液状化、また道を塞ぐように倒壊家屋が倒れている状態を背景に考えると、しばらくボランティアは入れないだろうと、一瞬頭をよぎった。案の定石川県は、「ボランティアは控えて」と制限した。いつものことだが、ネットでは「経験のない、未熟なボランティアが行っても迷惑になるだけだ！」と同調圧力がかかる。確かに前述したように道路の悪化に加え、主要な幹線道路は1本しかないという悪条件が重なる。「こんな時にとんでもない！」と間違いなくお叱りを受けるだろう。

しかし、私は「今回のような災害こそ、ボランティアがどんどん入らなければダメだ！阪神・淡路大震災が起こしたボランティア元年の再来を再現しなければならない！」と痛感した。

何故なら、いつもの被災地に比べて高齢過疎化が進んだ地域が多く、加えて被災地があまりにも広域で寸断され、直後は孤立集落が24か所も数えたのだ。現場からは、食料・水が足りない。寒くて凍えそう。暖房器具がもつと欲しいと悲鳴が聞こえてくる。「この世の終わりだ！」という悲痛な声も……。こうした厳しい状況の中で、政府関係者、行政職員、自衛隊、医療・介護従事者、助産師、レスキュー隊、重機オペレーターなど専門職の人たちが「一人の命を救おう！」と連日昼夜働いていることは百も承知している。しかし、残念ながらあまりにも悪条件が揃い、加えて広域な分散状況だけに、どうしてもこの働きがすべての被災者に届かない。つまり、どうしてもヌケ、モレができる。もちろん、この現象は誰が悪いわけでもない。このヌケ・モレを補うには、敢えていうと「だから行くしかないのだ！」と声を大にして言いたい。

足湯などの寄り添いによる心のケア、マンパワーで解決する瓦礫撤去や被災家屋の片付け、救援物資の配布、炊き出しなど被災者に届け、心の癒しをもたらすことができるということだ。何故ならば、こういう声に応えられるのは、機動力があり、暗黙知がある専門性を有しない、でも多様なボランティアなのだ。このことは29年前のボランティア元年が証明している。

4ヶ月が来る今こそ、石川県はボランティアにSOSを出すべきだ！ボランティアができることは山ほどあることは、言うまでもない。注目すべきは、彼女彼らが一人ひとりの被災者と向き合い、被災者に勇気を与え安心してもらう行為。その一つ一つが被災者(地)への気遣いが、心を癒すと確信する。

(被災地NGO協働センター顧問 CODE理事 村井雅清)

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
 「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

トルコ・シリア地震支援

トルコ・シリア地震から一年…



消えたハタイ(アンタキア)の街

震災1年の被災の状況

2023年2月6日にトルコ南東部を震源とするM7.8の巨大地震が発生し、隣国シリアを含めて、死者5万9259人、負傷者12万人以上、倒壊家屋約35万5000棟と甚大な被害を出しました。

その大災害から1年を経た被災地では、未だ厳しい避難生活が続いています。当初、1年以内に政府によって32万戸の恒久的な復興公営住宅が建設される予定でしたが、現在までに建設されたのは約7万戸にとどまっています。また、復興公営住宅の購入費用の150万リラ(約900万円)の半額は政府が補助しますが、現在、経済危機にあるトルコで、被災者が残りの半額を負担するのは非常に厳しい状況にあります。

約70万人の被災者たちは、未だコンテナの仮設住宅で不自由な生活を強いられていると同時に仮設住宅に抽選で入居できない人、政府の仮設に入りたくない人、テントで寝ている人などいます。



ガレキと化したキリスト協会

最も大きな被害を受けたハタイ県では、中心部のアンタキアの95%が壊滅的な被害を受けたと言われ、県全体で10万人近くが未だコンテナやテントで生活しており、県外に流出した人は震災前に人口約160万人の半数近くになるといいます。

ハタイ県では政治的、主教的な問題から政府からの十分な支援を得ることができない状況があり、未だガレキや倒壊した家屋がそのままの状態にあります。

CODEは、これまで4度にわたり現地にスタッフを派遣し、物資提供や調査、被災者へのヒアリングを行ってきました。2023年6月には、トルコのNGO、ACEVと連携してガジアンテプ県(ヌルダール)、アディヤマン県、ハタイ県(デフネ)の3か所の仮設住宅村の中に「家族と子どものケアセンター」を建設し、未就学児の幼児教育やトラウマケアを行う場を提供してきました。

また被害の甚大だったハタイ県では支援がほとんどないことから第4次派遣(2023年11月)と第5次派遣(2024年2月)でスタッフを派遣し、新たな支援プロジェクトのための調査を行ってきました。



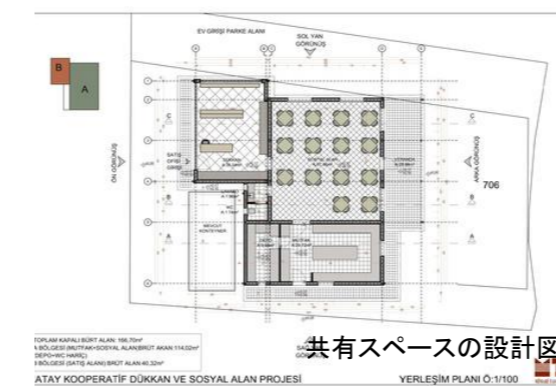
NGO「Dayanışma Gönülleri」のメンバーと



共に暮らすコンテナの仮設住宅



共有スペースの建設予定地



共有スペースの設計図

現地のNGO「Dayanışma Gönülleri(連帯ボランティア)」は、震災直後から12世帯(約50人)の友人知人同士でコンテナ仮設で共同生活をしながら、物資配布や水浄化システムによる水質改善などの支援活動を行ってきました。

政府からの支援は全くなく、小さなグループですが、被災者自身が主体リーダーは存在せず、「一人ひとりがリーダー!」、「自分たちでやれることを証明したい!」と自主的に活動し、「自分たちが家を建てたい」と言っています。

CODEは、このような自分自身で立ち上がろうとする被災者を支えるべく新たなプロジェクトを計画しています。彼と共同で、環境に配慮した農産物を加工・販売し、公平な取り引きを実現するために設立した協同組合の共有スペースを建設します。その工程で耐震を学ぶワークショップも実施します。被災者主体の動きから私たちが多くの事を学べると期待しています。

(吉樺)

若者が見た被災地



2024/2/6 Antakya Hatırası
「アンタキアの記憶」と書かれている

昨年2/6に地震が発生し、私がCODEの学生スタッフとしてトルコ・シリア地震の復興支援に関わり始めてから一年経ちました。今年2月に再度ハタイを訪れ、再会した現地の方々には1年という節目にむける「未来はもうない」と話されていて、改めてはっきりとした復興計画も明らかでなく、厳しい冬を過ごした彼女・彼達の現状の厳しさを感じました。

しかし、そんな中でも自分達で家を建て、ハタイの農産物や文化を大切に活動していきたいという想いを聞き、CODEとの建設物がそのような彼・彼女たちの生き方に寄り添い支える場となれば、と思いました。

今回訪れた際は連帯ボランティアの方々から、ハタイでの暮らしや地震前の景色を沢山教えてもらいました。そのような現地の方々の生き方から学びながら、私なりにこのトルコ・シリア地震で被災された方々に向き合い続けようと思っています。

(島村)

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

令和6年(2024年)
 能登半島地震支援

やさしや足湯隊



CODEは、被災地NGO協働センターと兵庫県防災士会と連携して能登半島地震の支援として「やさしや足湯隊」を結成しました。足湯ボランティアは、阪神・淡路大震災の際にKOBで始まり、全国に広まった活動です。お湯に足をつけ、被災者の方の手に触れ、さすることにより様々なつづやきが聞こえてきます。世代を超えて活動できる、それが足湯ボランティアです。

足湯につかりのんびりした空間を作ることで、疲れやストレスを少しでも解消していただきたい。現在は、神戸だけでなく全国の学生、若者も各被災地で足湯を実施しており、支援に駆けつけています。何かしたいと思っている学生・若者とこの想いを共有し、共に活動しています。「やさしや足湯隊」の名前の由来は、「能登はやさしや土までも」という言葉から名付けました。これは、人はもとより土までもやさしいという農の風土を表していると同時に、能登の人は素朴で温かいという意味を表しています。(山村)

先遣隊 2月4日～7日



- ◎メンバー
 ・村井雅清(被災地NGO協働センター)
 ・山村太一(CODE)
 ・糺川尚(神戸学院大学)
 ・山口泰輝(兵庫県立大学 大学院)
 ・土井香菜子(関西学院大学)
 合計 5人

- ◎活動内容
 ・正院小学校、興禅寺、師岡公民館での足湯ボランティア
 ・永福寺のお片付け、物資の運搬、視察等

◎参加した学生の感想(一部抜粋)
 ・私たちは支援者として現地に入ったつもりでしたが、派遣を終えてみて、逆に元気付けられたというか、被災された方々に支援してもらった感すらあります。「能登はやさしや土までも」と表現される「つながり」を大切にすることが、そうさせたのかもしれない。支援を中長期で継続するにあたっては、支援者にとってのインセンティブとして、受援者とのつながり大切になるのではと思いました。

・初めての発災直後の町へのボランティアだったためかなり緊張していました。阪神・淡路大震災が発生した地で生まれ育ち、当時の画像や映像や体験談を多く見聞きする機会があったものの実際のものを目にするとかなり衝撃的でした。

第一次足湯隊 2月19日～22日



- ◎メンバー
 ・山村太一(CODE)
 ・田中健一(兵庫県防災士会)
 ・富森暖(関西学院大学)
 ・阿部さくら(埼玉大学)
 ・山口穂菜美(立命館大学)
 ・馬場玲妃(京都薬科大学)
 合計 6人

- ◎活動内容
 ・輪島高校、森本石油、小牧集会所 西岸コミュニティセンターでの足湯ボランティア
 ・お家のお片付け、物資の運搬、物資整理、街の視察等

◎参加した学生の感想(一部抜粋)
 ・今振り返ると、ここ最近で一番感情が忙しかったなと思います。嬉しさ、虚しさ、楽しさ、驚きが一気に降り注いで冷静を保ちながらボランティアをすることに必死だったと感じます。

・約15分間左右両方の手を一生懸命さすった。「気持ちよかった。これからも頑張って長生きする」と言ってくれた時は僕は今までに感じたことのないくらい嬉しさと貢献した自分をほめる気持ちで胸がいっぱいになった。

・ボランティアに参加するかどうかがすごく悩んでいました。自分が参加したところで本当に力になれるのか、偽善と言われるのではないかと色々考えました。しかし、足湯をして行く中で、「若いのにわざわざありがとう」遠いところから能登のことを思ってきてくれるだけで嬉しい声を聞かせていただいて、力になりたいという私の思いだけでも伝えることができたのかなと感じました。

第二次足湯隊 2月26日～29日

- ◎メンバー
 ・山村太一(CODE)・紺屋仁志(大阪ボランティア協会)
 ・太田敦子(兵庫県防災士会)・貝沢愛美(大阪大学)
 ・久慈浩聖(東京学芸大学)・竹口ころこ(大阪大学)
 ・アジャール ポライ(東京学芸大学・トルコ人留学生)
 合計 7人

- ◎活動内容
 ・ブルート、森本石油、小牧集会所、西岸コミュニティセンターでの足湯ボランティア
 ・お家のお片付け、物資の運搬、物資整理

◎参加した学生の感想(一部抜粋)
 ・可能な限りの目配り・気配り・心配りを被災者本位であるかを確認しつつ努めることがボランティアのあるべき姿だと思いました。個々のニーズに合わせて拘って支援することができるCODEからボランティアに参加させてもらったからこそ、非被災者と被災者の違いを強く感じたと同時に、その違いがあるからこそ被災者本位の支援の大切さを感じることができました。



第三次足湯隊 3月5日～8日



- ◎メンバー
 ・山村太一(CODE)
 ・村井雅清(被災地NGO協働センター)
 ・西受穂乃花(関西学院大学)
 ・楊麗羽(一橋大学)
 ・水津樹紀(武蔵野大学)
 合計 5人

- ◎活動内容
 ・直小学校、三崎小学校での足湯ボランティア
 ・自主避難所の視察、物資の運搬、倒壊家屋の片付け

◎参加した学生の感想(一部抜粋)
 ・能登で被害にあった方々の力になりたいと思い、ボランティアに参加したのはもちろんのこと、私は生まれ一度も大きな震災を経験したことがないため、震災の知識や、状況を自分の目で確かめたいと思い参加しました。今回のボランティアに参加したことにより、能登半島地震への関心が高まり、また、南海トラフ地震の危機感も高まり、地震の対策についても考えるようになりました。



第四次足湯隊 3月13日～16日

- ◎メンバー
 ・山村太一(CODE) 島村優希(大阪大学、CODE)
 ・尾庭恵子(防災士) 稲澤遥樹(神戸学院大学)
 ・山口伊吹(兵庫県立大学) 國松万照(神戸学院大学)
 ・濱本知花(社会人) 西井優空(兵庫県立大学)
 ・大川昂征(神戸学院大学) 合計 9人

- ◎活動内容
 ・小牧集会所、西岸コミュニティセンター、大坊避難所 塩津上野集会所、若山小学校での足湯ボランティア
 ・自主避難所の視察、物資の運搬、整理

◎参加した学生の感想(一部抜粋)
 ・春から自身が高知県で行政職員になるということもあり、能登半島地震の被災地を見ながら、南海トラフ地震が起きたらこうなるのかとイメージしていました。地震で崩れた家、津波で流された船、物資をとりに来る人、ボランティアの拠点、避難所、仮設住宅の姿...それそれぞれを自分の目で見た経験を活かして、自身の働く自治体の災害後を細かくイメージして、防災・減災、復旧・復興策を考えていきたいと強く思いました。



第五次足湯隊 3月22日～25日



- ◎メンバー
 ・吉橋雅道(CODE)・植田隆誠(関西学院大学 CODE)
 ・今井愛梨(聖路加国際大学)・玉地結樹(神戸学院大学)
 ・石上穂伸子(社会人) 合計 5人
 ◎活動内容
 ・直小学校、嶋島小学校での足湯ボランティア
 ・自主避難所の視察、物資の運搬、倒壊家屋の片付け

◎参加した学生の感想(一部抜粋)
 ・みんなが何か役立ちたいと思っているように感じました。その様な人達と出会えて本当に良かったです。これからどんな防災について学んでいくかどんな経験をしていくかをたくさん悩ましてくれた現場となりました。勉強も大切だけれども現場に行つて学ぶ事もたくさんあると感じさせられたのでこれからたくさん現場に参加したいと思いました。

第六次足湯隊も3月28日～31日で行ってきました！

今後も第七次、4月26日～29日、第八次5月3日～6日に活動予定で、6月以降も続けていきます。ご支援、ご協力よろしくお願ひいたします。

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
 「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

子守ボランティア



子守ボランティアで再会をしたOさんはウクライナに戻った際のことを思い出し、「ウクライナに戻った時は強い気持ちだった。でも戻ってどんどん弱くなった。常にアラームを気にしなければいけないし、幼稚園に行くと、授業中もすぐ下の地下に行つて。窓の外にミサイルが通つて、『怖い』って思った。旦那さんは私達がいると緊張する、守らなきゃと思って。だから日本に戻ってきた。決めるときにほんとに悩んだ。日本は宇宙みたい。」と話されました。

徴兵制や経済活動のため男性がウクライナを出国できない現在、Oさんは幼い子どもと共に一人で故郷を離れざるを得ません。新たに子守ボランティアで訪問をしているSさんも同様に、昨年に日本で出産後、歯の治療で一度ウクライナに戻る必要があります。しかし、夫は徴兵される恐れがあるため祖国に戻ることができず、彼女と8カ月の子どもの二人で一時帰国されます。

そんなOさんは日本に戻り、今は自分の「内なる世界」に注意を向けたい。落ち着いて、考えたくないから、働いたり、これ(本)を読みたい。」とお話されていました。子守ボランティアという活動が、このような避難者の自由な時間に少しでもつなげられると思います。(島村)



2022年2月24日にロシア軍によるウクライナ侵攻が始まり、2年が経ちました。侵攻後、ウクライナ・ロシアから日本へは2,082人(2024年3月31日現在)避難しており、現在兵庫県には105人が避難民として在留しています。CODE海外災害援助市民センターはMOTTAINAIやさい便(神戸市内の留学生・難民・技能実習生のコミュニティに、規格外で廃棄処分となる「MOTTAINAI」野菜をお届けする活動)を通じて、ウクライナ支援をしてきました。

お野菜を届ける中、3歳の息子と共にウクライナから避難しているOさんの「ずっと子供と二人でいるとクレイジーになっちゃうよ!」という状況をきっかけに学生による子守ボランティアが始まりました。昨年8月から活動を休止していた子守ですが、ウクライナから日本へ再度避難される母子や避難者受け入れ家族の疲労等もあり、活動を再開しました。



〈参加学生のコメント〉

初めは少し緊張していましたが、緊張を一瞬で消してくれるほど元気な様子でお出迎えをしていただき、子守ボランティアを始めることが出来ました。外出の時間まで、お母様からウクライナでのお話を伺いました。正直、今までどこか他人事として戦争の話題を見聞きしていましたが、当事者の方を前にお話を伺うと、心を大きく動かされるような気持ちになりました。自分の知らない活動や取り組みに1歩足を踏み入れるのは勇気がいると思いますが、そこから得られる経験はすごく価値のあるものだと感じた一日でした。これからも需要がある限り、継続的に参加させていただきたいです。(神戸学院大学 2回生)

CODE寺子屋セミナー2023

災害・紛争...混とんとした時代に私たちはどんな未来を選ぶのか ～阪神・淡路大震災30年を目前に～

【開催概要】

日時:2024/1/13 13:30~15:30
会場:近畿ろうきん 肥後橋ビル12F
講師:安田菜津紀さん
(認定NPO法人 Dialogue for People 副代表)
主催:CODE海外災害援助市民センター
共催:近畿労働金庫、関西NGO協議会

昨今、災害・気候変動、紛争・戦争、感染症などが世界各地で頻発し、様々な情報が錯綜する中で私達市民一人一人は何を大切にし、次世代に伝えていくことができるのでしょうか。本セミナーではウクライナ、シリアやパレスチナ、東日本大震災では岩手県陸前高田市などで取材を続けてきた安田菜津紀さんのお話から、様々な現場で生きる人々の生活や命を見つめる機会となりました。

前半は写真を通じて、安田さんに現地でお会いした一人一人のストーリーについて講演頂きました。後半はCODE事務局長吉橋の進行で、安田さん、森下さん(近畿労働金庫地域共生推進室 次期専任役)、栗田さん(関西NGO協議会事務局長)、とトークセッションを行いました。NGOやジャーナリスト、金融機関という各団体から、社会で生きていく上で世界で起きていることに対してそれぞれができる「役割」についてなど、話されました。(島村)

【参加者の感想】

・まなざしの格差、無関心から関心へ、報道からの切り取られた情報、連携、連帯改めて考えられる機会でした。

・東日本大震災、パレスチナの問題について当事者から聴いた生の声を詳細に届けていただき、ありがとうございました。ニュース等、メディアを通して伝わってくる情報は主語が大きくなってしまおう言葉に強く納得させられました。安田さんに語っていただき得られた「ハニーちゃんを思い出す」という意識をこれからのアンテナに付け加えていきたいです。

・「風土」というのが今日の一つのキーワードだったと思います。自然災害への対峙は、ある種「風土」を培うものであるのに対し、国家間紛争での破壊行動や、その前後の政策などは「風土」の破壊を狙う傾向があるのかな、と感じました。あと、パレスチナでイスラエルがアラブの地名をことごとくヘブライ由来の呼称に書き替えていった歴史などもNHKのドキュメンタリーで見たのですが、これこそ「風土」の抹殺の一環なのではないかと思いました。かたや、東北や能登などでは、災害の記憶のために地名が作られてきたのと対照的といいますか。

・大きな災害が起こるたびにつながることの大切さを感じますが、平時に繋がってこそ力を発揮できると思います。ありがとうございました。



- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

イベントレポート

2月16日 やさしや足湯隊 報告 & 交流会



開催概要
 「足湯ボランティア先遣隊 報告会」
 日時: 2024年2月16日(金) 10:00~11:30
 報告者: 先遣隊 山口さん、羅川さん、村井、山村
 「足湯ボランティア 報告 & 交流会」
 日時: 2024年3月19日(火) 10:00~11:30
 報告者: 第一次やさしや足湯隊 富森さん
 第二次やさしや足湯隊 紺屋さん、竹口さん
 第三次やさしや足湯隊 楊さん

開催: 両日ともオンライン
主催: 兵庫県防災士会
 ・被災地NGO協働センター
 ・CODE海外災害援助市民センター

令和6年(2024年)能登半島地震の足湯ボランティア先遣隊の報告会と、第一次足湯ボランティアから第三次足湯ボランティアの報告会をオンラインで開催しました。
 報告会では、被災された方々のつぶやきや、そこから見える課題等の報告、初めて被災地ボランティアをしてのそれぞれの思いなどを報告しました。また、交流会ではこれから足湯ボランティアに行きたいと思っている方の質問や初めて被災地へ行く思いなどが飛び交い、ひとりひとりの関心の高さが窺える場となりました。(山村)

【イベント告知】
 能登半島地震報告会

開催内容
 日時: 2024年5月26日(日) 14:00~17:00
 場所: 兵庫県立大学 神戸防災キャンパス 大教室
 (人と防災未来センター東館4階
 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2)
 報告者: 頼政良太(被災地NGO協働センター 代表)
 第4次足湯隊~第8次足湯隊の各学生
 内容: 第一部 被災地NGO協働センターの報告
 第二部 第4次~第8次やさしや足湯隊の報告
 第三部 交流会
 参加費: 無料
 申し込み: お申し込みは、チラシQRコードから
 オンラインの方は、申し込みフォームの
 メールアドレスにzoomのURLを送ります。
開催: 対面(オンライン zoomも可)
主催: 兵庫県防災士会
 被災地NGO協働センター
 CODE海外災害援助市民センター

2024年1月1日午後16時10分に石川県能登地方で震度7の地震が発生しました。被災地NGO協働センターは七尾市中島町小牧を中心に能登半島での支援を続けています。また、「被災地NGO協働センター」「CODE海外災害援助市民センター」「兵庫県防災士会」が連携して結成した足湯ボランティア「やさしや足湯隊」は現在、先遣隊~第8次隊の(のべ59名)までが活動しており、今後も継続してまいります。

能登半島はまだまだ復旧の途中で、今後の復興のためにも被災地NGO協働センターと足湯隊「やさしや足湯隊」のこれまでの活動の報告会を行います。ボランティアに参加された方やボランティアに参加してみたい方、能登半島の現状やどんな活動を行っているのが気になる方など、どなたでもふるってご参加下さい。

日時: 2024年5月26日(日) 14:00~17:00
 場所: 兵庫県立大学 神戸防災キャンパス 大教室
 (人と防災未来センター東館4階
 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2)
 内容: 第一部 被災地NGO協働センターの報告
 第二部 第4次~第8次やさしや足湯隊の報告
 第三部 交流会
 参加費: 無料
 申し込み: お申し込みはこちら
 オンラインの方は、5月24日(金)までに申し込みください。
 5月25日(土)にzoomのURLを送らせていただきます。
開催: 対面(オンライン zoomも可)

主催・お問い合わせ 兵庫県防災士会
 被災地NGO協働センター
 CODE海外災害援助市民センター
 〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
 TEL:078-578-7744
 FAX:078-574-0702
 Email:info@code-jp.org
 Instagram:code_1995kobe
 Facebook:CODE海外災害援助市民センター

スタッフ活動記録 (2023/12/1~2024/3/31)	
2023/12/1	外務省定期協議会に出席(吉椿) コープこうべ・関西学院大学人間福祉学部社会起業論C「生協とNGOの連携」で講義(村井理事)
12/5	トルコ・シリア地震第4次派遣報告会 (宮本副代表、村井理事、冬頭理事、島村さん、藤本さん、山村、吉椿)
12/12	とびまつ中学菜園でお手伝い(村井理事) CODE12月度理事会
12/14	NGO・外務省定期協議会ODA政策協議会に出席(吉椿)
12/17	ワンワードフェスティバルfor Youthでブース出展(島村さん、近藤さん、山村、吉椿)
12/18	たつの市立御津小学校でトルコ・シリア地震の講演(山本健一さん、植田さん、那須さん、山村、吉椿)
12/19	NVNAD(西宮市立勤労会館)主催「トルコ・シリア地震報告会」で報告(島村さん、植田さん、吉椿)
12/20	関西学院大学ヒューマンサービス支援室主催「トルコ・シリア地震報告会」(上ヶ原で報告(近藤さん、植田さん、吉椿) 関西NGO協議会主催「ボランティア体験報告と募集説明会」に登壇(島村さん、那須さん、植田さん、山村)
12/21	関西学院大学ヒューマンサービス支援室主催「トルコ・シリア地震報告会」(三田キャンパス)で報告(植田さん、吉椿)
12/25-28	石川ワネンスクールで講演(吉椿)
2024/1/5	NHKきん5時出演(吉椿) ほっともっと関西出演(吉椿)
1/6	能登半島地震街頭募金(神戸駅)(植田さん、島村さん、近藤さん、那須さん、吉椿)
1/10	龍谷大学「国際NGO論」で講義(吉椿) 能登半島地震街頭募金(兵庫駅)(島村さん、山村、吉椿)
1/11	能登半島地震街頭募金(神戸駅)(島村さん、近藤さん、那須さん、山村、吉椿) MBS撮影(街頭募金)
1/12	舞子高校「1. 17震災メモリアル行事」で講演(山村)
1/13	CODE寺子屋2023「災害・紛争、混んとした時代に私たちはどんな未来を選ぶのか ~阪神・淡路大震災30年を目前に~」(講師:安田菜津紀さん)を開催
1/14	まちづくり研究所主催「能登半島地震報告会」で報告(山村、吉椿) 能登半島地震報告会in 東遊園地で報告(山村、吉椿)
1/15	関西国際大学「国際防災協力」で講義(山村、吉椿) 若者寺子屋(講師:村井理事)(島村さん、植田さん、那須さん、近藤さん、吉田さん、山村、吉椿)
1/16	長田合同庁舎で「能登半島地震」報告会(山村、吉椿) 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ第15回「能登半島地震」で講義(山村)
1/17	阪神淡路大震災29年ひょうご安全の日のつどい「交流ひろば」でブース出展(黒瀬さん、坂本さん、山村)
1/19	コープこうべ総代研修会(姫路)でトルコ・シリア地震若者企画の報告(山村)
1/22	コープこうべ総代研修会(池田)でトルコ・シリア地震若者企画の報告(那須さん、山村)
1/25	コープこうべ総代研修会(神戸)でトルコ・シリア地震若者企画の報告(近藤さん、山村、吉椿)
1/29	コープこうべ総代研修会(西宮)でトルコ・シリア地震若者企画の報告(山村、吉椿)
1/30	足湯ボランティア説明会(島村さん、頼政さん、村井理事、山村)
1/31	多大学プラットフォーム「能登半島地震」報告会(吉椿) 足湯ボランティア先遣隊 講習会(村井理事、山村)
2/2	JICA関西草の根技術協力事業外部審査委員会(吉椿)
2/5	関西NGO協議会理事会に出席(吉椿) 全国防災関係人口ミートアップで講演(吉椿)
2/16	足湯ボランティア先遣隊 報告会(羅川さん、山口さん、村井理事、山村)
2/20	中島町復興支援団体情報共有会議(頼政さん、増島さん、瀧美大阪大学教授、山村、吉椿)
2/29	CODE2月度理事会
3/1	ワネンスクール能登半島支援会議に参加(吉椿)
3/7	関西国際大学アジア提携校の学生に講義(吉椿)
3/12	NGO-JICA協議会で能登半島地震支援の報告(吉椿)
3/19	舞子高校生の募金受け取り(吉椿)
3/20	能登半島地震報告会(兵庫県震災復興研究センター主催)に参加(吉椿)
3/24	コープこうべ主催 語り手フェスタでブース出展(山村)
3/26	関西NGO協議会理事会に出席(吉椿)
3/28	ODA政策協議会(JICA関西)に出席(吉椿)

※能登半島地震派遣、足湯ボランティア、子守りボランティア、トルコ・シリア地震第五次派遣の活動記録は、割愛しております。各ページをご参照ください。

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
 「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

会員・寄付者 ご芳名(五十音順、敬称略)

12月1日から3月31日
*NL掲載不要者 削除済み
【会費】 高橋貞美、近畿労働金庫、小竹 貴介、西保昇

【ご寄付】

▶個人
ア行

相川康子、赤尾寿美子、朝倉民枝、畔上 安恵、安達有吾、井口克郎、池見宏子、井出賢、伊藤幸子、井藤幸子、井上雅楽緑、井藤 暁、今中由美子、今山朝枝、伊与田昌慶、岩井寿美子、内田博夫、内山志保、大江淑子、おーまちまき、岡田重益、岡田雅幸、小川順子、小原佐江

カ行

笠置りか、片岡 朋子、加藤加代子、加部文彦、鎌倉千俊、亀井加寿子、川村真理、河本暁美、岸桂子、岸野春子、木下愛子、木下洋子、木村周平、木村卓美、草地とし子、栗原カズキ、栗原仁志、小牧正子

サ行

坂手節子、坂戸勝、斎藤茂樹・敬子、佐藤朝子、サトウ ユタカ、師玉健男、茂幾保代、島崎明子、清水佐和子、白水士郎、菅磨志保、鈴木祐子、石東直子、空野仁

タ行

高橋澄江、高橋智子、高原幸輔・佳子、但川敬史、立部貴文、立部知保里、ダルマモリ・えりこ、寺田華恵、飛田雄一、富田実、鳥居 佳代子

ナ行

中原喜代子、中原美樹、仲村 良幸、仲村恵美子、中村敏子、中村柊輝、ナカムラ ユミコ、名越信次、西山淳子、湯井恵美子、

ハ行

花田知佳、原千栄子、日向真紀子、平澤重、婦木佑太・佑季、福田和昭、藤田ラウンド幸世、古林桂太、BAHANUR ALISOGLU

マ行

牧野 瑠衣、榎田 順子、水野明代、三井さよ、宮里優子、宮武光則、室崎益輝、森永 日奈子、森本莉永

ヤ行

山科満、山添令子、山田千恵子、山本正紀、横田隆志、横溝文夫、米田 幸人、米谷 啓和、吉椿絃・琴

▶団体

一麦保育園、紙ふうせん(池田理代子)、近畿労働金庫、神戸新聞厚生事業団、災害看護支援機構、サラ・シャンティ、大蔵本町町内会、舞子高校、まちづくり工房井筒屋、静岡県ボランティア協会、長迫気功教室、岱明気功教室、

【能登半島地震救援 募金】

能登半島地震救援活動への募金はCODEが共に活動している被災地NGO協働センターにおける救援活動に充てさせていただきます。直接、被災地NGO協働センターに振り込んでいただいた方は、協働センターから領収書を送らせていただきます。

▶個人

石田奈津子、伊藤隆、伊東伸子、大石利沙、川村真理、北後忠雄、木村周平、阪本百合、塩田明子、武田節子、立部貴文、田中宣子、辻伸行、中川徹・澄子、中原美樹、中村文、西海恵都子、原千栄子、平林典子、水嶋勉、吉川貴子

▶団体

SI神戸東 特別会計 会長 中村マリコ、兵庫県立舞子高等学校、福島ハーメルン・プロジェクトジョイントチーム木田拓雄

**その他、街頭募金活動等でも多くの方々からご協力頂いています。
ご支援・ご協力誠にありがとうございます！**



—CODE Supporter's Voice—

石崎有里(コープこうべ組合員理事)さんより

はずかしながら私はコープこうべの組合員理事になってはじめてCODEさんを知りました。こんなに近くに事務所があるのにです。そして、吉椿さんを通じて、メディアでは報じられない現地の生の声や状況を知ることができ、貴重な知識を得ることができました。また、山村さんをはじめ若いメンバーたちが率先して活動し、現場で活躍する姿を拝見し、素晴らしい活動だと思っています。

ある小学生の平和へのコメントで平和って言葉は難しい、でも私の考える平和は「世界の人がみんな笑顔でいる事だと思う」と言っていました。CODEさんの活動は、まさにこの考えに基づいているように感じます。一人でも多くの人が笑顔になる世界に貢献していけることを願っています。一人でも多くの笑顔を生み出す活動を、これからも心から応援しています。

石崎さん、いつもありがとうございます！

クラウドファンディング始めます！！

【能登半島地震支援】

学生・若者による足湯ボランティア「やさしや足湯隊」を応援して下さい！



「やさしや足湯隊」の活動は、本冊子のP8～9や以下リンクをご覧ください。皆様からいただいた、ご寄付は学生・若者が活動する際の交通費・消耗品費として使わせていただきます。みなさまの温かいご支援、ご協力よろしく願いいたします！

目標金額：200万円
期限：
2024年4月26日～6月30日

詳細情報はコチラ！➡



会員・寄付者各位

領収書送付の廃止について

平素より当団体の活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

原点である阪神・淡路大震災から30年を迎えようとしています。

この度、ご寄付いただいた方へお送りしていた領収書に関して、複数の会員、寄付者の方々から、「現在の領収書は領収書は郵便代や紙などにはもったいない」、「メールなどで送ってくれた方が余計な費用がかからない」、「貴重な寄付を郵便代に使わないでほしい」などのお声をいただいております。よって、今後は領収書はメールなどに添付するデジタル化をしていきたいと思っております。もちろん、これまで通りハガキの領収書をご希望の方は郵送させていただきます。何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

今後も、支援の必要などところに皆様の想いを届けてまいります。引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。
CODE海外災害援助市民センター

●水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲

●ピンクの枠線...仕上りのサイズ

●みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★PDFに変換して入稿される場合★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

・ページ数は表紙も含めた数になります

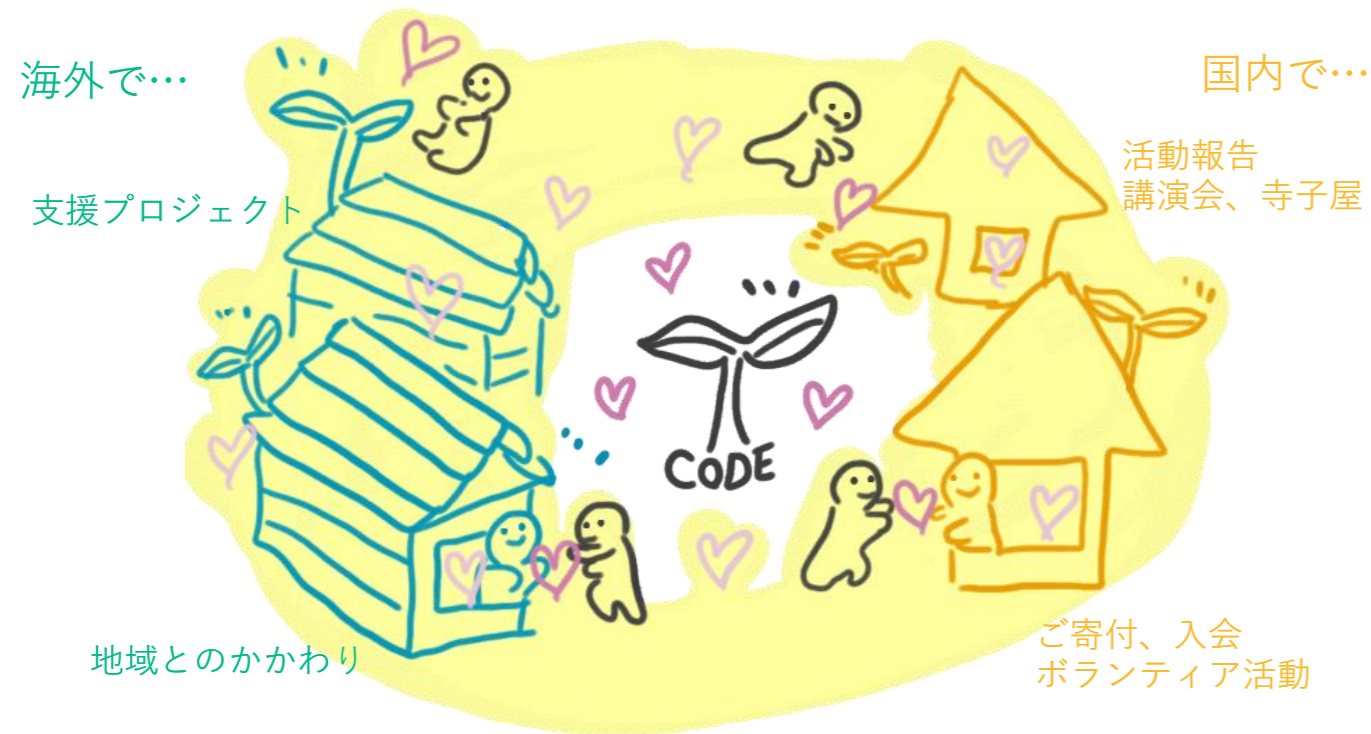
・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます

※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください

・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください

ご協力をお願い

みなさまからの応援があって、CODEは活動を継続できます。
お家から世界へ。CODEが支援のお気持ちを届けて、世界とあなたをつなぎます。



寄付して応援

活動を継続するためのご寄付です。
全体運営、特定の救援プロジェクトへのご寄付の指定も可能です。
25%を上限に管理運営費とさせていただきます。

ボランティアとして応援

事務所での作業や翻訳、自宅でも可能な作業などの
ボランティアを募集しています。
詳しくはCODE事務局までお問い合わせください！

知って・学んで応援

あなたの住んでいる地域で開催される講演会に
CODEスタッフを講師として派遣します。
テーマ・内容等、お気軽に事務局までご相談ください！

サポート会員になって応援

【正会員（総会での議決権あり）】

個人・学生 : 年会費 5,000円×1口以上
NPO/NGO : 年会費 5,000円×1口以上
企業・団体 : 年会費30,000円×1口以上

【賛助会員】

個人・学生 : 年会費 2,000円×1口以上
NPO/NGO : 年会費 2,000円×1口以上
企業・団体 : 年会費10,000円×1口以上

ともにCODEを創ってくださる方を
いつも募集しています

お振込み方法

■ ゆうちょ銀行
支店名：〇九九（ゼロキュウキュウ）
支店番号：099
口座番号：0330579

■ 近畿労働金庫
支店名：神戸支店
支店番号：642
口座番号：8881040（普通）
口座名義：CODE海外災害援助市民センター

【郵便振替】
加入者名：CODE
口座記号番号：00930-0-330579

【クレジットカード】
CODEのホームページより →
<https://code-jp.org/donation/>



※通信欄に用途をご明記ください。(例「ウクライナ」「賛助会員」)

発行元 (特活) CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-574-0702

E-mail : info@code-jp.org
HP : <https://www.code-jp.org/>



Facebook



Twitter



Instagram

- 水色の枠線.....切れてはいけない要素(文字やロゴ等)をいれる範囲
- ピンクの枠線...仕上りのサイズ
- みどりの枠線...フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ PDFに変換して入稿される場合 ★★★
「表示」>「スライドマスター」画面より色つきのガイド線を消してから変換してください

冊子のデータ製作について

- ・ページ数は表紙も含めた数になります
- ・データは1Pごとでも見開きでもご入稿頂けます
- ※見開きの場合はページ順どおりにご作成ください
- ・白紙のページがある場合はコメント欄にご指示ください